

(様式2)

令和4年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
93	川崎市立西菅小学校	小林 勝弘

学校教育目標	今年度の重点目標
かしこく 心豊かで たくましく 自分で考えて行動する子 共に生きる子	<ul style="list-style-type: none"> ・「わかる」「楽しい」授業を創る。 ・進んで挨拶やお礼を伝え、コミュニケーションの輪を広げる。 ・新しい生活様式を習慣にして、自分と大切な人の命を守る。

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 かしこく(知) ①「わかる」「楽しい」授業を創る。 ②自分の思いや願いを伝え、自分で考える力が身につく指導の工夫 ③進んで学習や課題に取り組む指導 ④国語科を中核に、言語能力をはぐくみ、学び合える授業を通して、保護者や地域とつながる。 ⑤かわさきGIGAスクール構想を実現し、未来社会の創り手を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ○全教科・領域で探究的な学習になるよう、導入の工夫、板書の工夫を心がける。 ○校内研究として国語を取り上げ、「話す」「聞く」を中心に研究を進めていく。 ○GIGA端末が効果的に活用できるように、日常の教育活動での積極的な活用や連絡手段としての使用に加え、日常の持ち帰りも実践していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「わかる」「楽しい」授業については、子どもたちの評価が高く、学校としてはとても嬉しく感じている。しかし、進んで学習や課題に取り組むことについては、児童、保護者とも他の項目と比較して、あまり高くなく、本校の課題である。 ○これまで、国語科の「話す」「聞く」を中心に校内研究を行い、相手に伝える力は着実についてきているが、教職員は、もっと表現力がついてほしいと考えている。また、保護者に対しても成果について、もっと発信していかなければならない。 ○かわさきGIGAスクール構想の取組については、教職員は一定の達成感を感じているが、保護者になかなか伝わっていないので、この点での発信の大切さも認識している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもが夢中になって取り組み、自ら進んで表現していく学習の実践を図るため、教員の指導方法を見つめ直し、改善を図る。 ○GIGA端末の効果的な活用を引き続き行い、校内研究ともリンクさせて実践していく。
2 心豊かで(心) ⑥進んで挨拶やお礼を伝え、コミュニケーションの輪を広げる。 ⑦思いやりや感謝する心を育む。 ⑧友達と協力して活動したり働いたりできる。 ⑨目標に向かって最後まで粘り強くやり通す。 ⑩読書活動を充実させて、自らを高める本と出会い、活用する。	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶やお礼については、まずは大人が率先垂範していく。 ○かわさき共生* 共育プログラム研究協力校として、日々の実践や効果測定等を通し、子どもたちの気持ちを醸成させていく。 ○自主的な活動に際して、継続的に温かい評価をしていく。 ○学習も活動に見通しをもたせるため、教育過程を工夫する。 ○読み聞かせの活動を復活させたり、図書時間を充実させるなど、学校司書や図書ボランティアとの連携を深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「挨拶」「感謝」「思いやり」「協力」については、児童も教職員も意識をもって行っているため満足度は高い。「挨拶」など児童会等が自主的に行っていて、一定の成果が見られるが、受け身になってしまう児童も見られ、その意義を継続的に伝える必要がある。 ○目標に向かって最後まで粘り強くやり通すことや読書活動については、教職員や保護者、児童も課題と感じている。今日的な教育観を再度見つめ直し、家庭との連携をより図り、集中して取り組むことの大切さを考えていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○思いやり、感謝、協力の気持ちを大切に、いじめ撲滅を図るため、継続して異学年交流を深めていく。 ○児童の自主的な活動につなげるため、朝会を月1回に減らし、そのほかの時間を委員会活動や係活動の準備等の時間に充てる。 ○日常的な読書活動の充実のため、読書タイムの時間を延ばしたり、読書に親しむ日を作り、家庭と連携を図るなど、創造力の育成に努める。

3	<p>たくましく(体)</p> <p>⑪新しい生活様式を習慣にして、自分と大切な人の命を守る。</p> <p>⑫体を動かすよさに気づき、運動を楽しみ進んで体力づくりを行う。</p> <p>⑬学校の決まりや交通ルールを守って安全に生活する。</p> <p>⑭自己免疫力を高める睡眠・栄養・運動を通して、健康的な生活習慣を身に付ける。</p>	<p>○昇降口での毎日健康チェックなどの感染症対策を継続しながら、教育活動を徐々に平時に戻すため、活動を広げていく。</p> <p>○登下校の仕方や放課後の遊び方等について、子どもたちに啓発していく。</p>	<p>○全体的に手ごたえを感じている施策である。新しい生活様式については、児童と教職員の捉え方にギャップは見られるものの習慣化されている児童が多く、混乱はなかった。</p> <p>○体を動かすことは、委員会活動による集会の計画等いくつかの仕掛けはあったが、児童によって取り組み方が両極端となっており、今後ますます自己免疫力を高めていく必要感が高まることを考えると体力づくりへの啓発が必要となる。</p> <p>○学校の決まりや交通ルールについては、おおむね保護者の評価は高いものの放課後の遊び方などについては課題が見られる。</p>	<p>○マスクの着脱の方針を受けて、本校の在り方を模索していくが、継続的な体力づくりのため、見通しをもった取組を考えていく。</p>
4	<p>支援教育の充実</p> <p>○子どもにとっての最善を考え、教育的配慮のもと、適切な支援や指導を行う。</p> <p>○一人一人の教育的ニーズに応じた支援教育を基盤として取り組む。</p>	<p>○教育相談については、担任に相談することをベースに、にしにしポストの活用範囲を広げ、困ったことや相談したいことだけでなく、よいことについても受け付ける体制づくりを行う。巡回カウンセラーについても積極的に広報し、子どもたちの相談だけでなく、保護者の相談にもつなげていく。</p>	<p>○教育相談について、管理職、コーディネーター、巡回カウンセラー等、広く相談を受ける体制づくりが整い、同じ方向を向いて養育できるように努力してきた。今後もよりベターな方法を模索していきたい。</p> <p>○SOS出し方・受け止め方教育を授業参観で実施した。その効果について、継続的に見ていく必要がある。</p>	<p>○教育相談のさらなる充実のため、月1回の教育相談日を個人面談や授業参観がない月は、月2回に拡充する。</p> <p>○引き続き、SOS出し方・受け止め方教育を行っている。</p>
5	<p>開かれた学校を目指して</p> <p>○学校説明会、学校公開、授業参観、学習発表会、学校・学年・保健・給食便り・HP等で、子どもの姿や学びの様子を発信し、共有する。</p> <p>○児童・保護者・教職員で行う学校評価の結果と考察を生かして学校を運営する。</p>	<p>○HPや配信メールをフルに活用し、積極的な情報発信に努め、保護者や地域からの信頼を深める。</p> <p>○学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を立ち上げ、地域が学校運営に参画することで、さらに教育活動の活性化を図る。</p>	<p>○授業参観、学習発表会での参観人数を緩和し、平時に戻す足がかりができた。</p> <p>○学年だよりを学校だよりに一歩化することで、全部の学年の学習が見通せるようになり、好評を得ている。</p> <p>○HP(平日毎日更新)、配信メールで、児童の姿や学びの様子、学校の考え方等を発信し、こちらも高い評価をいただいている。</p> <p>○今年度学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を立ち上げ、学校評価にも参画していただいている。学校評価アンケートもWEB化を図った。</p>	<p>○引き続き、保護者や地域への情報提供に努め、信頼度が深まるよう努めていく。</p> <p>○デジタルトランスフォーメーション推進の流れを受け、よりよい情報発信・情報収集の在り方について模索していく。</p>

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて
<p>○授業参観では、子どもたちがとても落ち着いていた。GIGA端末をスムーズに使っていた。校内研究の内容がよく分からないとアンケートで答えていたが、教室の掲示物の子どもの作品をみたら、文章表現に日々の成果が表れているのを感じた。</p> <p>○学校だよりがタイムリーである。学校だよりの中に全学年の予定や連絡が掲載されているので、学校全体の動きが見れてとても良い。</p> <p>○たくさんやらなければいけないことがあったり、いい子でないといけないと思ったり、子どもたちが大変じゃないかと感じた。学校でしっかりやっている分、下校後、解放されている姿があってもおかしくはないと思った。学校が来て楽しいところとなってくればよいと思う。</p> <p>○もう少し、じっくり授業参観をしたかった。先生方の発問に対して子どもたちがどのように思考していくのかを見てみたい。</p> <p>○自分の成人した子どもを見ていて思ったが、異学年やいろいろな人とのコミュニケーションをとりながら成長していくことは大切だと思う。</p> <p>○校長先生のお考えが教職員に伝わり、子どもたちへの教育につながっていると感じた。少人数の学校なので、どこまで支援していくか悩むところである。大きな失敗をさせたくないが、小さな失敗を経験して自主的な部分を育てていただけるとありがたい。</p>	<p>○今年度の人事異動等により、教職員が多く入れ替わった。これを良い機会と考え、本校が守ってきたものを大切にしながら、新たな改革も生み出してきた。小規模校であるので、一人一人にかかる業務が多くなるが、少しずつ改善を加え、少しでも子どもたちの指導に注力できるよう努めてきた。また上記のように、保護者や地域に向けた情報発信に努め、開かれた学校の姿を具現化するとともに、教職員向けの「校長室だより」を通して、管理職の考えを積極的に知らせてきた。また、今年度の施策についても教職員で一つずつ成果や課題を話し合い、学校運営への参画の風土を作り上げることができた。</p> <p>○来年度は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの自主的な活動を促すため、様々な場面で探究的な活動を行っていく。 ・読書活動とGIGA端末を使った活動をハイブリッドで行い、豊かな創造力の育成に努める。 ・感染症対策から体力づくりへ ・きめ細やかな指導をするための様々な仕掛けを行っていく。 <p>(例)学年によっては、学年内交換授業、少人数授業、取り出し授業の実施。通級指導教室との連携。</p> <p>・様々な今日的教育課題(GIGAスクール構想、キャリア在り方生き方教育、防災教育、情報モラル教育、市制100周年に向けての取組等)のさらなる充実</p>